

東京都医師会 キッズホスピタルランドが開催されました

子どもとその保護者を対象に、東京都の医療の現状についての展示や、ドクター&ナース体験などを通じて、医療やカラダに関する知識を
楽しみながら学ぶ参加・体験型イベント「キッズホスピタルランド」が2月7日(日)、東京ソラマチ5階 スペース634(墨田区)にて開催されました。

主催:公益社団法人東京都医師会 協力:東京消防庁、財団法人東京防災救急協会

8回目を迎える今回はNHKの人気番組「サンダーバード ARE GO」とコラボレーション。子どもたちは“国際救助隊”の気分でさまざまな体験をしていました。

“国際救助隊”の気分で 楽しく体験して学ぶ

「キッズホスピタルランド」の会場内はパネル展示コーナー、体験コーナー、ステージと大きく3つに分けられています。パネル展示コーナーには、自分で病院に行くか、救急車を呼ぶかの選択に迷ったときに相談できる「#7119 東京消防庁救急相談センター」や「小児救急コーナー」「近くの病院ってどこ?」などがあり、小さなお子さんがいるお母さんたちに好評でした。

体験コーナーは「カラダのミュージアムコーナー」「ドクターになって診察コーナー」「看護師になって血圧測定コーナー」の3コーナーを展開。子どもたちが白衣を着てドクターや

看護師の指導を受けながら、実際に保護者に対して問診、聴診、血圧測定をするコーナーでは、子どもも大人も一緒になって楽しんでいました。

東京都医師会会長が 自ら煙害を熱く語る

ステージではタイムスケジュールに従って、5つのプログラムが実施されていました。中でも、救急救命士からAEDの使い方や三角巾を使った止血法などを教わる「今日からきみも国際救助隊!」と、車いすや目隠し・白杖で段差を通行する「国際救助隊と学ぶ介護サポート体験」は大人気。実際に介護サポートに参加した子どもは「目隠して、どこに何があるのか分からず怖かった。でも、目が見えないことの大変さが分かってよかった」

(8歳・女の子)とプログラムの意図をきちんと理解したようでした。また、「子どものために考える タバコ」の害では、東京都医師会の尾崎治夫会長自らが、喫煙による健康リスクと両親の喫煙が子どもに及ぼす悪影響について熱く語り、その一言一言にうなずく若いお父さん、お母さんの姿が多数見受けられました。

子どもたち最大のお楽しみは、「サンダーバード スタンプラリー」。会場内に設置された5つのスタンプを集めると、サンダーバードペンセットがもらえます。すべてのコーナーを回り、楽しく遊びながらしっかり学んで、最後にごほうびともいえるペンセットのお土産までもらえる「キッズホスピタルランド」は、たくさんの笑顔に包まれたまま閉会しました。



小腸に見立てたウレタンホース。みんな引っ張り出すのに夢中



東京都医師会の尾崎会長のセミナー



会場内はファミリーでいっぱい



目隠しと白杖で歩行体験



聴診器を使って気分はお医者さん、看護師さん



制服を着てゴキゲン!



スタンプラリーでカッコいいサンダーバードペンセットをゲット!

